

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校）
四街道市立四街道中学校

研究主題

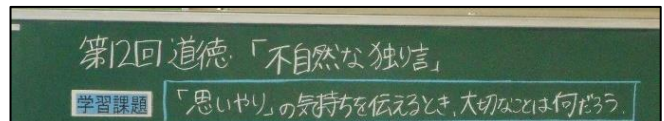
自己の生き方について考えを深め、
よりよく生きようとする生徒を育む指導の在り方

取組1 授業形態の工夫により、生徒が道徳的価値に関心を持ち、より深く自分事として捉えられるような道徳の授業を目指す

工夫1 道徳的価値に関心を向けさせる工夫

1 学習課題を提示する。

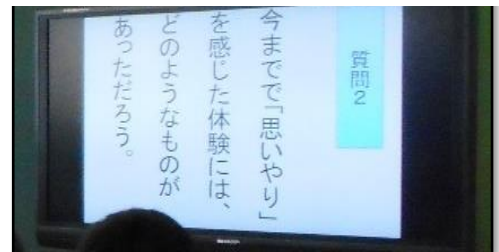
本時の授業で考えるテーマを提示し、迫りたい価値から逸れない授業展開を目指す。



↑ 学習課題を青枠で囲むことを共通実践している。

2 導入を工夫する。

本時の授業で扱う価値についての事前アンケートの結果を、テレビ画面に提示するなどして実態を共有し、考え、議論する動機づけとする。



工夫2 学習の見通しをもたせる工夫

授業展開をパターン化し、板書ラベルで示すことで、生徒に授業の見通しをもたせる。

①問題把握

…教材を読み取り、問題となる部分を共有する。

②自分で考える

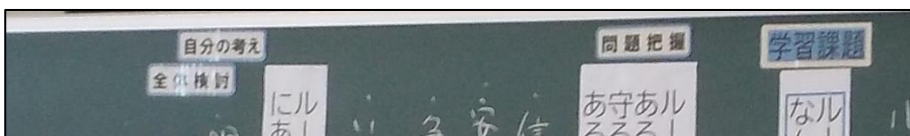
…自分の意見をもつ時間を確保する。

③全体検討

…ペア、4人グループで意見交流し、全体での意見交流へとつなげ、多面的・多角的に考えさせる。

④プラスワン

…授業を通して、今までの自分の考えになかった新たな気づき、考えを書かせる。



← 黒板の上方にラベルを掲示しての授業展開を全学級共通実践した。

工夫3 より良い授業を練り上げる工夫

1 毎週の職員道徳科打ち合せの設定

その週に行う道徳の授業で考え、議論させるポイントについて共有するため、学年ごとに職員で打ち合わせを行う。

2 ローテーション道徳の実施

一人の教員が、1つの教材を複数のクラスで展開し、より良い授業を練り上げる。学級担任以外の教員が授業を行う機会を設け、学級担任が自分の学級の生徒の様子を客観的に見取る。

取組 2 互いの意見を交流し、自己の生き方について多面的・多角的に考えられるような指導を工夫することにより、よりよく生きようとする生徒を育む。

工夫 1 広い視野で考えさせる工夫

1 意見交流の機会を設定する。

個人で考えさせた後には、必ず意見を交流する場を設定し、多様な考えに触れる機会を十分に確保する。

2 聞き方、話し合いの仕方を指導する。

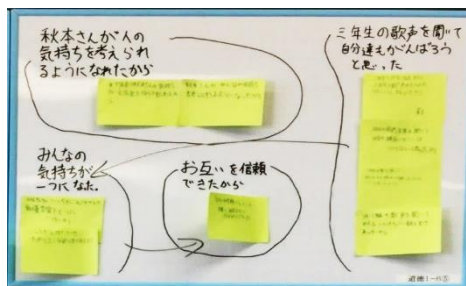
共感的な姿勢で、仲間の意見を聞くことを指導の重点としつつ、教材や発問に応じて話し合いの仕方を変えていく。

【思考ツール活用の例】

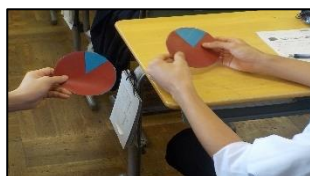
・付箋 ・ネームプレート ・ホワイトボード

【多様な話し合いの例】

・KJ法 ・トリオトーク ・ブレインストーミング



↑個人の考えを付箋に書いた後、4人グループで付箋をホワイトボードに貼り、多様な考えを共有する。



←死刑制度の賛否について、思考ツールを用いて議論している。

工夫 2 考えを深めさせる工夫

1 ねらいに迫る発問をする。

中心発問と、補助発問（なぜそう思うのか？違う場面だったらどうか？といった問い返し等）について、学年道徳打合せで教材研究を重ねて実践する。

2 思考を深める時間を確保する。

授業以外の時間（朝読書の時間等）を活用して教材を読み込む時間を別に作ることで、授業内で、個人で考えたり意見交換したりする時間を十分に設定する。

工夫 3 自分事として考えさせる工夫

1 今までの自分に「プラスワン」を考えさせる。

授業の終末に、今までの自分になかった新たな気づきや考えたことを見つめ直して書かせることで、本時で迫ってきた道徳的価値について、より自分事として捉える場とする。

2 学期末に振り返りをする。

学期毎に、学習してきた道徳の授業の中で心に残っている授業と、その理由を考えさせることで自己の学びの積み重ねや、道徳的思考の成長を振り返らせる。

主な成果と課題

- 学習課題の提示や、学習過程ラベルの掲示などを共通実践することで、授業者に関わらず道徳の授業の時間には全学級において、迫りたい価値について考えさせることができた。
- 「道徳科打合せ」「ローテーション授業」の実践により、学級担任だけでなく全職員で道徳の授業を充実させようとする意識を高め、体制を整えることができた。
- 事前に教材を読むことで、思考を深め、議論する時間の確保につながった。
- 終末時に、「プラスワン」の時間を設け、自分事として考えさせることで、価値について考えを深め、よりよく生きようとする態度を育むことができた。
- 用いる思考ツールの種類を充実させ、より適した思考ツールが活用できるようにしたい。
- 生徒の反応、発言について事前に十分に予想し、より深く考えさせるための「問い返しの発問」を充実させ、授業力を向上していきたい。

授業実践事例

中学校 第3学年 道徳科学習指導案

令和元年11月15日(金)

1 主題名 お互いの個性を認めるとは C(9)相互理解、寛容 (県の視点「支え合う喜び」)

2 ねらいと教材

リーダー決めでもめていたクラスがまとまった要因を考えることを通して、他者の個性を認め、尊重することで互いに高め合える良好な人間関係を築こうとする心情を育む。

(教材名「みんなで描く心の色」 出典「千葉県道徳教育映像教材」千葉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

一人一人の力を集団の中で活かしていけるようになることが、集団としてもその中にいる一人一人も成長していくことになる。学校・クラスという身近な集団の中で、自分も周囲の仲間も大切にしつつ、互いに成長しあえる人間関係を築こうとする心情を養えると考え。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

生徒の他者理解はトラブルを回避するための「消極的な」寛容・尊重であり、そこには自身の成長につながる謙虚に学ぶ姿勢が欠けているように思う。生徒は中学校を卒業して新しい環境の中に身を置く。その中で良好な人間関係を築くとともに、たくさんの出会いを通して様々なことを吸収して学ぶことで、自立した人間に成長していく素地を養っていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材はドラマ仕立ての映像教材であるため、生徒は話の流れを理解しやすく、登場人物の表情から心情も捉えやすい。積極的に相手の「個性を認めて活かす」ことが、なぜハッピーエンドにつながっていくのかに気付かせ、残り少ない中学校生活で自分たちのクラスが目指すべき姿をイメージさせることができると考える。相手の個性を認めて活かすことは、良好な人間関係を築く上で大切なことであると気付くことができる教材である。

4 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価(☆)
導入 (7)	1 価値に対する方向付け ・事前アンケート「個性について」の結果を提示する。 ・学習課題を提示する。		・事前にとったアンケートを掲示し、クラスの傾向を紹介する。
展開 (35)	互いの個性を認めることの大切さについて考えよう。		・学習課題を自分事として捉えられるように価値の方向付けをする。
	2 教材の提示 ・登場人物・あらすじを確認する。 3 教材「みんなで描く心の色」 についての話し合い ○ぎくしゃくしていたクラスがまとまることのできたのはどうしてだろう。	・翔太が理子の才能を保証したので、周りも理子を信頼して任せられたから。 ・絵の得意な理子がリーダーになったから。周りが理子の才能を認めて協力したから。	・事前に映像を視聴して、あらすじ、登場人物を確認するところから始める。 ・個人で考えたことを付箋に書き、グループで分類して整理させる。 ・グループで出た意見を発表し、全体で意見を確認する。

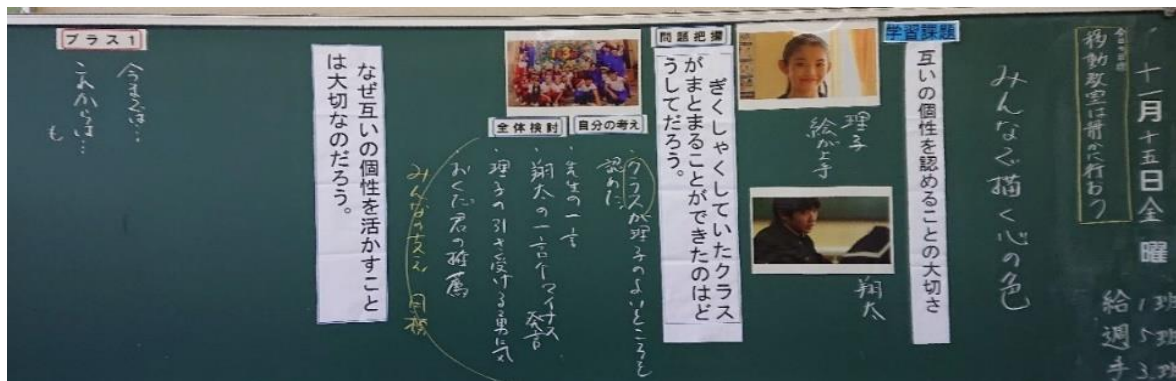
	◎なぜ互いの個性を活かすことは大切なのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> その人の得意分野を集団の中で活かすことで、活動がスムーズになるから。 相手を認め合うことで人間関係のよい集団になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個性を活かすことが良好な人間関係を築くことにつながることに気づかせ、ねらいとする価値に迫る。
終末(8)	4 価値の主體的自覚 <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返る 今日の学習から、気づいたことやこれからの自分に活かそうと思うことをプラス①としてまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> 視点を意識させ、自分事として捉えて書かせる。 ☆個性を認めて活かすことの大切さについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えていたか。

5 他の教育活動との関連

全教科の授業において、他者の考えや行為を寛容な心で受け止め、自分との違いを捉えて前向きに自分の考えに取り入れようとする態度を養う。

6 授業の様子

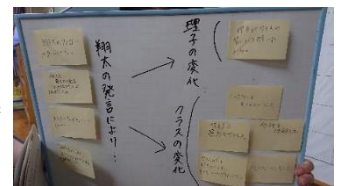
(1) 板書



(2) 生徒の様子

○生徒の振り返り

- 個性とは「他人との違い」だと思った。個性があるから成長できる。だから、「みんな違ってみんないい」のだと思った。
- それぞれが個性を発揮することにより、様々な穴をふさぐことができる。人間皆完璧なはずはないので、一人一人が自分の個性を活かして団結し、協力することで普通では成しとげられないようなものでも成しとげることができる。
- 仲の良い友だちでも互いを“尊重する”ということをしてこなかった気がする。相手の良いところ、個性を知れば相手のことをもっと好きになると思う。相手の良いところをたくさん探したいと思う授業だった。



○参観者の感想

- 心情を追っていく展開が多い中、個性を活かすという展開だった。そのため、教材に入りこみすぎることなく、道徳的価値に迫っていたのではないかと感じた。発問に関して、3つにまとまっており、話し合いを基にねらいに迫ることができた。
- おとなしい生徒が「人間関係を良好にするため」と発言できた。ねらいとする道徳的価値に近付けたのではないかと感じた。パワーポイントについては、教材の中に使いにくい場面があったため、使いたい部分だけを見せることができた。
- 付箋を使うことに慣れている。班で整理し分析することで、多面的・多角的な考えに触れることができた。

